

【2015/7/27 23:01】 後発薬最大手のテバ、アラガンから事業買収 5兆円で

[http://www.nikkei.com/article/DGXLASGM27H8A\\_X20C15A7FFB000/](http://www.nikkei.com/article/DGXLASGM27H8A_X20C15A7FFB000/)

【ニューヨーク＝高橋里奈】後発医薬品世界最大手のテバ・ファーマシューティカル・インダストリーズ（イスラエル）は27日、米医薬大手アラガンから後発薬事業を買収することで最終合意したと発表した。買収額は405億ドル（約5兆円）にのぼる。後発薬大手のマイランに仕掛けていた買収提案は撤回するとした。後発薬市場は価格競争が激しい。テバは規模拡大で他社を引き離し、首位を固める。

テバは現金と株式でアラガンから後発薬事業を買い取り、2016年前半にも買収を完了するとした。合併により、売り上げ規模は16年に約260億ドルに上る見通し。テバの14年の売上高は203億ドル。

今回の買収は両社の取締役会が全会一致で合意したという。エレズ・ビゴッドマン最高経営責任者（CEO）はアラガンの後発薬事業の獲得で、「長期的で持続可能な成長のための強固な地盤を築くことになる」と述べた。

世界の後発薬市場では買収合戦が繰り広げられている。特にテバは同業他社の買収に意欲的で、同業のマイランに約400億ドルで買収を仕掛けたが4月末に拒否され、後発薬3位のアラガンの事業部門買収にかじを切った格好だ。

テバのアラガンの後発薬事業の買収が実現すれば規模で2位のノバルティス（スイス）傘下のサンドを大きく引き離す。コスト削減で価格競争力が高まれば、競合他社を寄せ付けない圧倒的な首位を確立することになる。合併によるコスト削減や節税効果は年間約14億ドル以上になる見込みだ。

テバは売り上げの半分を後発薬で稼ぎ、米国を主戦場としている。だが米市場は競合他社との価格競争が激しい。主力の多発性硬化症治療薬の「コパキソン」も苦戦しているため、他社の買収をテコとした競争力の強化を急いできた。

アラガンは米後発薬のアクタビスが3月にしわ取り薬「ボトックス」で知られる製薬大手旧アラガンの買収を完了し、社名を変更した企業。同社も複数の企業買収で規模を拡大しており、後発薬部門の売却で選択と集中を加速させる。

旧アラガンを巡っては昨年、カナダの製薬大手バリアント・ファーマシューティカルズ・インターナショナルが物言う株主で知られるビル・アックマン氏と協力して敵対的買収をしかけていた。そこに後発薬のアクタビスが現れ、買収で合意した経緯がある。